

1. 評価結果概要表

作成日 平成 20年10月22日

【評価実施概要】

事業所番号	3490100173		
法人名	医療法人社団応仁会		
事業所名	グループホームあかしあ落合		
所在地 (電話番号)	広島県広島市安佐北区落合南四丁目41-21 (電話) 082-845-3070		
評価機関名	特定非営利活動法人 NPOインタッチサービス広島		
所在地	広島市東区福田1丁目167番地		
訪問調査日	平成20年10月20日	評価確定日	

【情報提供票より】(20年10月9日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 19 年 7 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	14 人	常勤 8 人, 非常勤 6 人, 常勤換算	7.6 人

(2) 建物概要

建物形態	単独/併設	新築/改造
建物構造	その他 造り 1 階建ての 1 階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	49,800 円	その他の経費(月額)	管理費26,250 円
敷金	有(150,000 円)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(無)	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	275 円	昼食 580 円
	夕食	580 円	おやつ 140 円
	または1日当たり 1,575 円		

(4) 利用者の概要(10月9日現在)

利用者人数	18 名	男性 7 名	女性 11 名
要介護1	4 名	要介護2	6 名
要介護3	5 名	要介護4	3 名
要介護5	0 名	要支援2	0 名
年齢	平均 81 歳	最低 68 歳	最高 89 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	あかしあクリニック 仁野歯科クリニック
---------	---------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

閑静な住宅地に建設された当ホームは公園の真向いにあり、地域住民との交流の場ともなっていて、環境に恵まれている。職員は「私たちはそれぞれの思いを大切にしながら、生きがい・やりがいを感じることができる優しいケアを目指します」という理念のもとで、利用者が家庭的な環境の中で自立した日常生活を営み「住み慣れた街でその人らしく最後まで」生活が持続できるようにホームの環境整備を行うと同時に介護の体制を整えている。広い敷地内にグループホームのために設計された建物の真ん中には中庭があり、これを囲んで居室・ホールが配置され明るい居住空間が確保されている。
職員の真心と愛情のこもったケアのもとで利用者はこのホームを「第二のわが家」として考え、普通の生活をしていて、その表情は明るく生き生きとしている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 初回外部評価のため該当なし。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 今回は管理者中心で自己評価を行い、それに対して職員の意見を求める形をとっていて、最初から全職員が参加して課題に取り組む形とはなっていないが 次回評価からは全員参加の自己評価となることを期待したい。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 2ヶ月に1回運営推進会議を開催し、ホームの現況説明、諸行事の報告、地域への協力依頼等を行い、出席者からの助言や意見をいただきサービスの改善に活かせるよう努めている。会議の成果の例として、「あかしあ通信」の町内回覧によるPR、徘徊ネットワークの編成などが実現した。会議の出席メンバーは、民生委員・町内会長・自治会長・老人会長・包括支援センター職員・介護保険課職員・地域住民代表・利用者家族代表などで、この会議を通して地域との連携が深まっている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族の来訪時に面談し、家族からの意見・要望を聞いている。また、定期的な連絡としては毎月の預かり金報告時に「あかしあ通信」や写真入りの便りに施設長・看護師・担当スタッフのメッセージを添えて送付している。意見・苦情などの申し立て方法については重要事項説明書に明記しており、意見・要望を積極的に運営に反映させるよう努めている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 自治会長・老人会長をはじめ地域の人のホームに対する理解は深く、地域行事への参加などを積極的に支援してくれている。町内行事への参加、近所の方々のボランティア訪問、地元小学生との交流など地域との良好な連携ができています。 また、運営推進会議を通じて地域との連携をさらに深めるよう努めている。

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	平成19年7月のホーム開設前に、スタッフ全員で理想の介護、受けたい介護を考え、「私たちはそれぞれの思いを大切にしながら、生きがい・やりがいを感じることができる優しいケアを目指します」という理念を作り上げ、利用者が地域の中でその人らしい生活を継続できるように努めている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	玄関の見えやすい場所に理念を掲示するとともに、スタッフはミーティングやケアプラン作成時など日々の実践の中で常に理念を意識し、ケア活動に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会長・老人会長をはじめ近所の人々のホームへの理解は深く地域行事への参加を積極的に支援してくれている。町内大掃除、祭りへの参加、近所の方々の来訪、地元小学生との交流など、地元の人々との交流は充分行われている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価・外部評価の意義・重要性をよく理解し、ホームの現状・課題を確認する良い機会だととらえ、見出された課題に対し具体的な改善計画を立て、前向きに取り組もうとしているが、今回は初めての自己評価であったため管理者・計画作成担当者中心で作成し他の職員はほとんど関与していない。	○	自己評価実施に当たっては職員全員が参加し、課題があれば全員で検討し改善に向けて取り組まれることを期待する。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度(奇数月の第4金曜日)、民生委員・町内会長・自治会長・老人会長・包括支援センター・介護保険課職員・地域住民代表・利用者家族代表の参加を得て会議を開催し、ホームの現状報告や説明を行うとともに参加メンバーからの意見や助言を受け、ホームのサービス向上に活かしている。 (例:「あかしあ通信」の町内回覧、徘徊ネットワークの実現など)		

NPOインタッチサービス広島

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括支援センター職員・健康長寿課職員とは諸報告・会議等を通じて相談・質問等ができる関係ができている。 今後は介護者教室、認知症予防などの勉強会を開催できるようにして地域との連携を深めていきたいと考えている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の来訪時に利用者の日常生活状況やホームの現状について報告するとともに家族の要望・意見を聞いている。また、毎月、預かり金の報告を行う時、写真入りの便りに施設長・看護師・担当スタッフのメッセージを添えて送付している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	気軽に家族が意見や要望を話せる環境作りを心がけている。 苦情などの申立て先については重要事項説明書に明記し、運営に関する家族の意見を積極的に反映させようと努めているがホーム内に苦情受付窓口の表示や「ご意見箱」が設置されていない。	○	「ご意見箱」を玄関口など、よく見える場所に設置し、面と向かって言いにくい意見・要望を出せる場を提供されたい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員と利用者の馴染みの関係作りを心がけており、離職などにより新しい職員を採用した時などは利用者への影響を防ぐために古いスタッフを中心に職員同士でフォローし合っている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は職員教育の重要性をよく認識しており、採用後研修と、毎月の継続研修を受講する機会を設け、職員のレベルアップを図っている。 外部研修受講者は研修報告を行い、全員で勉強し、資質向上に努めている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同一区内の老健施設などへ実習に出かけ、研修を重ね、サービスの質の向上に役立っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	グループホームの雰囲気に馴染めるように、事前に本人・家族と面談して生活状況や心身の状態を把握するとともに、ホームの見学時にレクに参加してもらい、お互いの信頼関係ができて馴染みの関係ができたうえでサービスを開始するように努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	支援する側・される側という関係にとらわれず常に利用者と同じ視点でお互いを支え合い・いたわりながら生活を楽しんでいる。職員は年長者である利用者を人生の大先輩として尊敬し、いろいろと家事を教えてもらったりしながら喜怒哀楽を共にし、利用者がのんびりと過ごす時間を持てるように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時に本人や家族から希望や意向・生活歴を聞き取るように努めるとともに、入居後も毎日の会話や行動から本人の希望や意向を把握し利用者一人ひとりにあった生活ができるように努め、ケアプランに取り入れている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者一人ひとりについて思いや希望をよく聞いたうえで本人がより良く暮らすための介護上の課題を明らかにするためにカンファレンスを行い、本人・家族・職員で充分話し合い、それぞれの意見を聞いたうえで詳細な介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	基本的には6ヶ月ごとに見直しを行うことにしているが、状況の変化があった時はその都度、利用者・家族・関係者などで充分話し合い、状況に即した新たな計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	日常的な外出のほか、プライベートな外出希望(一時帰宅、墓参り、買い物、ドライブなど)や特別な受診のための送迎など、できる範囲で希望に応じた柔軟な支援をするように努めている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関での受診以外に本人や家族の希望があれば、かかりつけ医の受診ができるように支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期を迎えた場合の最善のあり方について、早い段階で家族と話し合い希望を聞いたうえで終末期のケア方針を決め、同意書を受け取っている。 重要事項説明書に「重度化及び看取り介護について」を明記し、①適切な病院の紹介②グループホームで対応③自宅で看取り、を本人と家族の意向に沿って選択している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者一人ひとりの尊厳やプライバシーを傷付けないような言葉かけや対応に心がけているが関係が濃くなり親密になると言葉が雑になりがちであると自覚し気を付けている。個人情報保護については、その重要性をよく理解し、契約書・運営規定にも明記し徹底した管理を行っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体操・作業レク・運動レク・散歩・おやつ・入浴など基本的な1日の流れは決めているが利用者の行動を職員の都合や決まりで規制せず、できるだけ利用者一人ひとりのペースに合わせてゆったりとその人らしく生活できるように支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	家庭的な雰囲気を大切にし、出来る人には簡単な調理・配膳・片付けなどを職員と一緒にしてもらっている。 また利用者と職員は同じテーブルで一緒に楽しく和やかな食事の時間を過ごしており、職員は利用者をさりげなくサポートしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴時間帯は午前・午後に充分とっており、出来るだけ利用者の希望の時間に合わせて入浴できるように支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日常生活の中で利用者が充実感を持って過ごせるように、利用者一人ひとりの能力や思いを活かした場面作りをし、家事・散歩・花の手入れ・レクリエーションなど、それぞれの役割・楽しみごとの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者一人ひとりの希望を聞き、出来るだけ外に出かけられるように支援しており、散歩・買い物や地域行事への参加などを積極的に行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけることの弊害を良く理解してはいるものの現在は事故発生が予想される案件を抱えているため玄関には鍵をかけるようにしている。将来的にこれを解決するための方法を検討しているが、安全のためには当面現状維持としている。	○	見守りの方法、近所の人への協力依頼等を含めて「鍵をかけないケアの実践」について引き続き前向きに検討されることを期待する。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害対策マニュアル、非常連絡網を整備し、消防署の協力を得ながら災害訓練を年2回実施している。また、運営推進会議を通して地域の協力をお願いしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士の作成した献立により栄養バランスやカロリーに配慮された食事が提供されている。毎食の摂取量や1日の水分量を記録するとともに月1回の体重測定や3ヶ月に1回の血液検査を行い、利用者一人ひとりの状態に応じた支援を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	建物の中央に広いガーデン(ウッドデッキ)があり、太陽の光やさわやかな風が存分に取り入れられ、自由に出入りでき、ここに植えられた芝や花木への水やりを楽しんでいる。また、ガーデンをとりまく廊下はバリアフリーで格好のウォーキングコースにもなっている。共用空間には行事のスナップ写真や利用者の作品が飾られている。広くて明るいホールには畳コーナーも設置されていて談笑したり寛げる空間が確保されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には洋室と和室が用意されており、利用者は使い慣れた家具や寝具、思い出の品などを持ち込んでそれぞれ思い思いの飾り付けを行って、自分の部屋で自分らしい生活を楽しんでいる。		

NPOインタッチサービス広島

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I 理念の基づく運営				
1 理念の共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。	開所前 スタッフで 理想の介護 受けたい介護を考え つくりあげた。		新しいスタッフに 周知徹底する。今後ミーティングの度に 読み上げる。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	その人らしい生き方 想いを少しでも理解できるようにミーティング ケアプラン作成時に 話し合っている		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	玄関に提示している。		説明をしていないので 今後は理念について説明をしていく。
2 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	近所を散歩して 挨拶をかわし 顔見知りになるようにしている。行事の時は回覧版をまわし 遊びに来てもらうように呼びかけている。		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	運営推進会議を2ヶ月に1回開催している。行事の参加 手伝いなどにも来てくださっている。町内の行事には 出来る限り参加させてもらっている。		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	町内の行事(清掃 祭り)に参加している 町内の方がボランティア(踊り)に来てくれる 町内の方と合同で餅つきあり		今後は介護者教室 認知症予防などの勉強会を開催できるようにしていく。
3 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	運営者、管理者は自己評価及び外部評価を実施する意思を理解している。		外部評価を活かして具体的な改善に取り組みたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	地域との連携が取りやすくなってきている。		
9	○市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	地域包括支援センター 健康長寿課から運営推進会議に参加していただいている		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	弁護士も交えて、活用しているが 理解できていないスタッフもいる。		今後勉強会を開き知識をつけていく。

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	新聞 ニュースなどを元に何故起こったのかを話し合っている。		
4 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約する際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	時間をかけ説明しているが 勘違いなどもあるので 出来るだけ複数の人に立ち会ってもらい説明をする。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらの運営に反映させている。	アンケートをとって要望 不満などをきいている。出た意見を 早急に改善するよう努力している。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	毎月写真と様子などを報告している。預かり金の報告も毎月行っている。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	気軽に話しの出来る環境作りを心かけている。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	スタッフミーティングを毎月開催 他にも急遽問題がある場合はミーティングを開き スタッフの意見を聞く機会をつくっている。		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	入居者の状態によって勤務時間を変更してきた。今後も状態によって考えていく。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	異動はないが離職はある。新しい職員に 利用者が遠慮するので古いスタッフが関係作りをしていく。		
5 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	研修に交代で参加させレベルアップ 勉強の機会を設けている。		
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	近くの施設に実習に行かせている。		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	休憩を1時間とる。ストレスを吐き出す機会をつくる。面談し悩みを聞くようにしている。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。	運営者は無理のない勤務体制に心がけ、職員の勤務態度・勤務状況・要望を把握するように努めている。年1回は、勤務評価し、ベースアップも行っている。		さらに職員の要望を取り入れ、職員のやる気を向上させたい。

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき た項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。	日頃より、観察・傾聴に努め、職員が情報を共有し、不安を取り除き安心して生活出来るように努めている。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	見学 契約時など 家族の想いをしっかりきいている。その上で出来ること 不可能なことを説明している。		
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	まずは在宅サービスを利用してみてはどうかすすめている。担当のケアマネと相談しより良い方法を検討している。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気になら馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	見学時 レクに参加していただき 雰囲気を感じてもらっている。		
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人を共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	人生の大先輩として色々教えてもらっている。家事もしっかり教わっている。		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき た項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	家族によって関係が上手くいく場合と行かない場合がある。出来るだけ良い関係が作れるよう担当スタッフを考えている。		
29	○本人を家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。	月に1回は面会をお願いしているが 来られない家族もいる。せめて電話だけでもかけてもらうようお願いしている。 過去疎遠であった家族関係が改善した場合もある		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	できていない 家族が望まない場合が多い。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	気の合う仲間ができていますが時々 トラブルにもなっている。スタッフが間にはいり 距離をおくようにしている。気分転換に散歩などに行く。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	亡くなった利用者の家族にも行事のお知らせをしている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人 家族に希望をきいている ケアプランに取り入れている。		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	家族も把握できていないことが多く ケアマネや以前利用していた施設から情報をいただいている。時間をかけて本人からも情報を得ている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	家族 本人から時間をかけて聞き 把握に努めている スタッフ同士しっかり情報を共有するようにしている。		
2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	担当スタッフが 本人やスタッフの意見を聞き作成している。		
37	○状況に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	家族 関係職員とカンファレンスを 必要に応じて開催している。		
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	プランチェック表を作成し 実行し評価していくようにしている。		
3 多機能性を活かした柔軟な支援				

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々 の要望に応じて、事業所の多 機能性を活かした柔軟な支援 をしている。	夏祭り 家族に参加を呼びか けている。外出レク時 かな かなか一緒に外出できない家 族へ声をかけている。		
4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に 応じて、民生委員やボラン ティア、警察、消防、文化 ・教育機関等と協力しなが ら支援している。	年末、家族や地域の方に協 力してもらい餅つきをして いる。消防署による指導を うけた。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に 応じて、地域の他のケアマ ネージャーやサービス事業 者と話し合い、他のサービ スを利用するための支援を している。	要望があれば支援して いく		必要であれば支援して いく。
42	○地域包括支援センター との協働 本人の意向や必要性に 応じて、権利擁護や総合 的かつ長期的なケアマネ ジメント等について、地 域包括支援センターと協 働している。	要望があれば支援して いく		権利擁護事業等につ いては、必要に応じて 取り組んでいく
43	○かかりつけ医の受診 支援 本人及び家族等の希望 を大切に、納得が得られ たかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適 切な医療を受けられるよ う支援している。	必要に応じて行っ ている。		
44	○認知症の専門医等の 受診支援 専門医等認知症に詳 しい医師と関係を築き ながら、職員が相談し たり、利用者が認知症 に関する診断や治療を 受けられるよう支援し ている。	月2回往診して もらっている		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	看護師が配置されている		
46	○早期退院に向けた医療機関と協働 利用者が入院したときに安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	努めている		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い全員で方針を共有している。	家族の希望を聞き 終末期のケア方針を決めている 対応できる範囲で対応している		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	状態の変化によって 職員 家族での話し合いを行い検討している		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている。	入院の際、本人の状況、ADL、生活習慣、病歴、ケアの具体的内容などの情報を詳しく伝え、持続性に配慮している。		
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1 その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。	声かけが 時々馴れ馴れしいことがある 記録の取り扱い は 徹底している		関係が 濃くなりすぎ感があることがある。今後注意していく

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	こちらから 強制はせず 本人のやる気を引き出すよう努めている		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	可能な限り行っている		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	家族が こちらでの出張理美容を希望せれるので 本人の希望にはそえてない		
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	配膳 簡単な調理などは 行ってもらっている 片付けは当番で行ってもらっている		
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	ご家族から好みおやつを預かって、管理し、お出ししている。 行事食の時、ビールなどをお出ししている		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	個別の排泄パターンの把握 おむつの使用は極力減らす努力をしている		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	時間帯については職員一人の入浴対応は安全性に欠けるため、寝る前の入浴は行っていない		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	強制せず 本人の生活ペースを大切にしている		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々の過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	散歩や家事 レクリエーションなどにしっかり参加していただいている		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	無くなるため ほとんどの方は 事務所で管理している 時々買い物に行き 予算内での買い物を楽しんでいる		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	時間の許す限り 支援している		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり支援している。	個別では 行っていないが 入居者の希望を聞き 外出レクを決めている		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自ら電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	できている		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	している		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	取り組んでいる		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	今現在は 事故防止のために 玄関に鍵はかかっている		いつかは 鍵をかけずに 過ごしたいが しばらくは 不可能のように思う
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	必ず フロアにスタッフが1人は配置できるように配慮し 事故防止に努めている		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	本人が管理できる範囲で許可している		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	事故 ひやりハットなどを 記入し周知徹底している		重度化に伴いADL低下が予想されるため、今後もミーティングで話し合い取り組んでゆく
70	○急変や事故発生の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期期に行っている。	行っているが 実際には 体験のないスタッフが多いため あわてるのが予測される		ホーム内研修を行っていく
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身に付け、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	地域運営推進会議で話し合いを行っている		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。	入居時に話 理解を求める努力をしている 心身状態の変動により新たなリスク発生かせ予想される場合については事前に説明を行っている		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	毎日のバイタルチェック 異常 異変あれば看護師に連絡対応している		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	一覧表を作成し 把握に努めている		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。	水分補給 運動を取り入れている 毎日ヨーグルトを摂取してもらっている		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	口腔ケア 舌洗い等援助している		
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べれる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	管理栄養士の作成献立が実施されている 毎食の摂取量の把握、月1回の体重測定 3か月に1回の血液検査を行っている		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している。 (インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	勉強会にて 予防している かかった時の対応マニュアルも作成している		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	食洗機にて乾燥、アルコール消毒の実施		
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり				

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りが出来るように、玄関や建物周囲の工夫をしている。			
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	共用の空間は広く作られ、中庭に季節に応じた花や野菜を植え、自由に出入り出来る		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共有空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	廊下にソファを置いている 中庭にもベンチが置いてある		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居時家族に話 持参してもらっている		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	行っている		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	手すりをつけている 段差のないようにし 環境整備に努めている		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	解るときもあるので 解らないと決め付けない。自分で出来ることを 見つける支援をしている		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	花や野菜と一緒に植えている 草ぬきもしてもらっている ホームのまわりの掃除もしてもらっている		

V サービスの成果に関する項目（さくら）

88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	① ほぼ全ての利用者の ② ○利用者の2/3くらいの ③ 利用者の1/3くらいの ④ ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。	① ○毎日ある ② 数日に1回程度ある ③ たまにある ④ ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。	① ほぼ全ての利用者が ② ○利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんど掴んでいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。	① ほぼ全ての利用者が ② ○利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんど掴んでいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。	① ほぼ全ての利用者の ② ○利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんど掴んでいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。	① ○ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんど掴んでいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。	① ほぼ全ての利用者が ② ○利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんど掴んでいない

95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。	<input type="radio"/> ① ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> ② ○家族の2/3くらいと <input type="radio"/> ③ 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> ④ ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。	<input type="radio"/> ① ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ② 数日に1回程度 <input type="radio"/> ③ ○たまに <input type="radio"/> ④ ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	<input type="radio"/> ① ○大いに増えている <input type="radio"/> ② 少しずつ増えている <input type="radio"/> ③ あまり増えていない <input type="radio"/> ④ 全くいない
98	職員は、生き生きと働いている。	<input type="radio"/> ① ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ② ○職員の2/3くらいが <input type="radio"/> ③ 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> ① ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ② ○利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③ 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ ほとんど掴んでいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> ① ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ② ○家族等の2/3くらいの <input type="radio"/> ③ 家族等の1/3くらいの <input type="radio"/> ④ ほとんどできていない

※ は、外部評価との共通項目

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I 理念の基づく運営				
1 理念の共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。	開所前 スタッフで 理想の介護 受けたい介護を考え つくりあげた。		新しいスタッフに 周知徹底する。今後ミーティングの度に 読み上げる。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	その人らしい生き方 想いを少しでも理解できるようミーティング ケアプラン作成時に 話し合っている		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	玄関に提示している。		説明をしていないので 今後は理念について説明をしていく。
2 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	近所を散歩して 挨拶をかわし 顔見知りになるようにしている。行事の時は回覧版をまわし 遊びに来てもらうように呼びかけている。		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	運営推進会議を2ヶ月に1回開催している。行事の参加 手伝いなどにも来てくださっている。町内の行事には 出来る限り参加させてもらっている。		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	町内の行事(清掃 祭り)に参加している 町内の方がボランティア(踊り)に来てくれる 町内の方と合同で餅つきあり		今後は介護者教室 認知症予防などの勉強会を開催できるようにしていく。
3 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	運営者、管理者は自己評価及び外部評価を実施する意思を理解している。		外部評価を活かして具体的な改善に取り組みたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	地域との連携が取りやすくなってきている。		
9	○市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	地域包括支援センター 健康長寿課から運営推進会議に参加していただいている		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	弁護士も交えて、活用しているが 理解できていないスタッフもいる。		今後勉強会を開き知識をつけていく。

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	新聞 ニュースなどを元に何故起こったのかを話し合っている。		
4 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約する際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	時間をかけ説明しているが 勘違いなどもあるので 出来るだけ複数の人に立ち会ってもらい説明をする。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらの運営に反映させている。	アンケートをとって要望 不満などをきいている。出た意見を 早急に改善するよう努力している。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	毎月写真と様子などを報告している。預かり金の報告も毎月行っている。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	気軽に話しの出来る環境作りを心かけている。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	スタッフミーティングを毎月開催 他にも急遽問題がある場合はミーティングを開き スタッフの意見を聞く機会をつくっている。		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	入居者の状態によって勤務時間を変更してきた。今後も状態によって考えていく。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	異動はないが離職はある。新しい職員に 利用者が遠慮するので古いスタッフが関係作りをしていく。		
5 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	研修に交代で参加させレベルアップ 勉強の機会を設けている。		
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	近くの施設に実習に行かせている。		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	休憩を1時間とる。ストレスを吐き出す機会をつくる。面談し悩みを聞くようにしている。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。	運営者は無理のない勤務体制に心がけ、職員の勤務態度・勤務状況・要望を把握するように努めている。年1回は、勤務評価し、ベースアップも行っている。		さらに職員の要望を取り入れ、職員のやる気を向上させたい。

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき た項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。	日頃より、観察・傾聴に努め、職員が情報を共有し、不安を取り除き安心して生活出来るように努めている。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	見学 契約時など 家族の想いをしっかりきいている。その上で出来ること 不可能なことを説明している。		
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	まずは在宅サービスを利用してみてはどうかすすめている。担当のケアマネと相談しより良い方法を検討している。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気になら馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	見学時 レクに参加していただき 雰囲気を感じてもらっている。		
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人を共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	人生の大先輩として色々教えてもらっている。家事もしっかり教わっている。		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき た項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	家族によって関係が上手くいく場合と行かない場合がある。出来るだけ良い関係が作れるよう担当スタッフを考えている。		
29	○本人を家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。	月に1回は面会をお願いしているが 来られない家族もいる。せめて電話だけでもかけてもらうようお願いしている。 過去疎遠であった家族関係が改善した場合もある		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	できていない 家族が望まない場合が多い。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	気の合う仲間ができていますが時々 トラブルにもなっている。スタッフが間にはいり 距離をおくようにしている。気分転換に散歩などに行く。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	亡くなった利用者の家族にも行事のお知らせをしている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人 家族に希望をきいている ケアプランに取り入れている。		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	家族も把握できていないことが多く ケアマネや以前利用していた施設から情報をいただいている。時間をかけて本人からも情報を得ている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	家族 本人から時間をかけて聞き 把握に努めている スタッフ同士しっかり情報を共有するようにしている。		
2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	担当スタッフが 本人やスタッフの意見を聞き作成している。		
37	○状況に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	家族 関係職員とカンファレンスを 必要に応じて開催している。		
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	プランチェック表を作成し 実行し評価していくようにしている。		
3 多機能性を活かした柔軟な支援				

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々 の要望に応じて、事業所の多 機能性を活かした柔軟な支援 をしている。	夏祭り 家族に参加を呼びか けている。外出レク時 かな かなか一緒に外出できない家 族へ声をかけている。		
4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に 応じて、民生委員やボラン ティア、警察、消防、文化 ・教育機関等と協力しなが ら支援している。	年末、家族や地域の方に 協力してもらい餅つきをし ている。消防署による指 導をうけた。		
41	○他のサービスの活用 支援 本人の意向や必要性に 応じて、地域の他のケア マネージャーやサービス事 業者と話し合い、他のサ ービスを利用するための支 援をしている。	要望があれば支援して いく		必要であれば支援して いく。
42	○地域包括支援センター との協働 本人の意向や必要性に 応じて、権利擁護や総合 的かつ長期的なケアマネ ジメント等について、地 域包括支援センターと協 働している。	要望があれば支援して いく		権利擁護事業等につ いては、必要に応じて 取り組んでいく
43	○かかりつけ医の受診 支援 本人及び家族等の希望 を大切に、納得が得られ たかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適 切な医療を受けられるよ う支援している。	必要に応じて行ってい る。		
44	○認知症の専門医等の 受診支援 専門医等認知症に詳しい 医師と関係を築きなが ら、職員が相談したり、 利用者が認知症に関する 診断や治療を受けられ るよう支援している。	月2回往診してもらっ ている		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	看護師が配置されている		
46	○早期退院に向けた医療機関と協働 利用者が入院したときに安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	努めている		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い全員で方針を共有している。	家族の希望を聞き 終末期のケア方針を決めている 対応できる範囲で対応している		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	状態の変化によって 職員 家族での話し合いを行い検討している		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている。	入院の際、本人の状況、ADL、生活習慣、病歴、ケアの具体的内容などの情報を詳しく伝え、持続性に配慮している。		
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1 その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。	声かけが 時々馴れ馴れしいことがある 記録の取り扱い は 徹底している		関係が 濃くなりすぎ ナアーナアーの声かけになる。今後注意していく

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	こちらから 強制はせず 本人のやる気を引き出すよう努めている		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	可能な限り行っている		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	家族が こちらでの出張理美容を希望されるので 本人の希望にはそえてない		
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	配膳 簡単な調理などは 行ってもらっている 片付けは当番で行ってもらっている		
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	ご家族から好みおやつを預かって、管理し、お出ししている。 行事食の時、ビールなどをお出ししている		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	個別の排泄パターンの把握 おむつの使用は極力減らす努力をしている		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	時間帯については職員一人の入浴対応は安全性に欠けるため、寝る前の入浴は行っていない		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	強制せず 本人の生活ペースを大切にしている		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々の過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	散歩や家事 レクリエーションなどにしっかり参加していただいている		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	無くなるため ほとんどの方は 事務所で管理している 時々買い物に行き 予算内での買い物を楽しんでいる		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	時間の許す限り 支援している		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり支援している。	個別では 行っていないが 入居者の希望を聞き 外出レクを決めている		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自ら電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	できている		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	している		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	取り組んでいる		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	今現在は 事故防止のために 玄関に鍵はかかっている		いつかは 鍵をかけずに 過ごしたいが しばらくは 不可能のように思う
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	必ず フロアにスタッフが1人は配置できるように配慮し 事故防止に努めている		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	本人が管理できる範囲で許可している		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	事故 ひやりハットなどを 記入し周知徹底している		重度化に伴いADL低下が予想されるため、今後もミーティングで話し合い取り組んでゆく
70	○急変や事故発生の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期期に行っている。	行っているが 実際には 体験のないスタッフが多いため あわてるのが予測される		ホーム内研修を行っていく
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身に付け、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	地域運営推進会議で話し合いを行っている		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。	入居時に話 理解を求める努力をしている 心身状態の変動により新たなリスク発生かせ予想される場合については事前に説明を行っている		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	毎日のバイタルチェック 異常 異変あれば看護師に連絡対応している		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	一覧表を作成し 把握に努めている		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。	水分補給 運動を取り入れている 毎日ヨーグルトを摂取してもらっている		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	口腔ケア 舌洗い等援助している		
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べれる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	管理栄養士の作成献立が実施されている 毎食の摂取量の把握、月1回の体重測定 3か月に1回の血液検査を行っている		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している。 (インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	勉強会にて 予防している かかった時の対応マニュアルも作成している		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	食洗機にて乾燥、アルコール消毒の実施		
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり				

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りが出来るように、玄関や建物周囲の工夫をしている。			
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	共用の空間は広く作られ、中庭に季節に応じた花や野菜を植え、自由に出入り出来る		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共有空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	廊下にソファを置いている 中庭にもベンチが置いてある		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居時家族に話 持参してもらっている		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	行っている		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	手すりをつけている 段差のないようにし 環境整備に努めている		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	解るときもあるので 解らないと決め付けない。自分で出来ることを 見つける支援をしている		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	花や野菜と一緒に植えている 草ぬきもしてもらっている ホームのまわりの掃除もしてもらっている		

V サービスの成果に関する項目(ひまわり)

88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	① ほぼ全ての利用者の ② ○利用者の2/3くらいの ③ 利用者の1/3くらいの ④ ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。	① ○毎日ある ② 数日に1回程度ある ③ たまにある ④ ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。	① ほぼ全ての利用者が ② ○利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんど掴んでいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。	① ほぼ全ての利用者が ② ○利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんど掴んでいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。	① ほぼ全ての利用者の ② ○利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんど掴んでいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。	① ○ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんど掴んでいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。	① ほぼ全ての利用者が ② ○利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんど掴んでいない

95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。	<input type="radio"/> ① ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> ② ○家族の2/3くらいと <input type="radio"/> ③ 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> ④ ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。	<input type="radio"/> ① ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ② 数日に1回程度 <input type="radio"/> ③ ○たまに <input type="radio"/> ④ ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	<input type="radio"/> ① ○大いに増えている <input type="radio"/> ② 少しずつ増えている <input type="radio"/> ③ あまり増えていない <input type="radio"/> ④ 全くいない
98	職員は、生き生きと働いている。	<input type="radio"/> ① ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ② ○職員の2/3くらいが <input type="radio"/> ③ 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> ① ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ② ○利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③ 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ ほとんど掴んでいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> ① ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ② ○家族等の2/3くらいの <input type="radio"/> ③ 家族等の1/3くらいの <input type="radio"/> ④ ほとんどできていない

※ は、外部評価との共通項目